

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

熊本県 苓北町

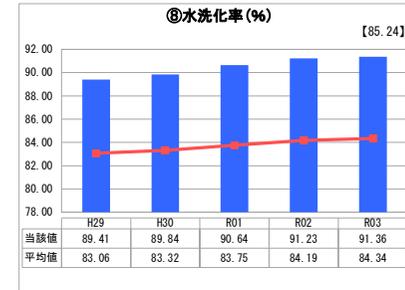
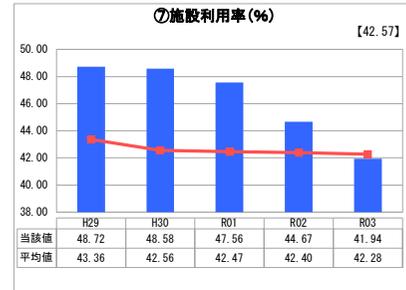
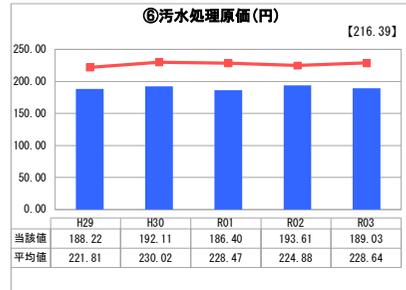
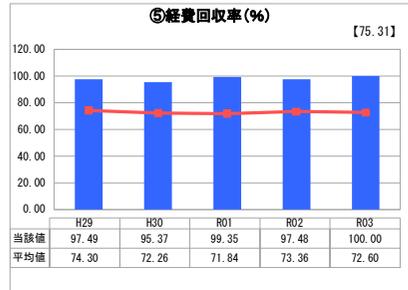
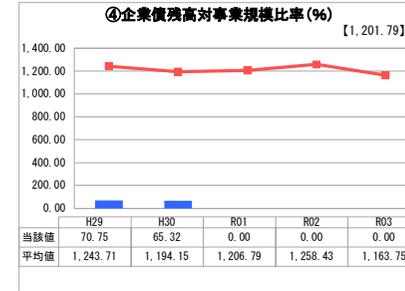
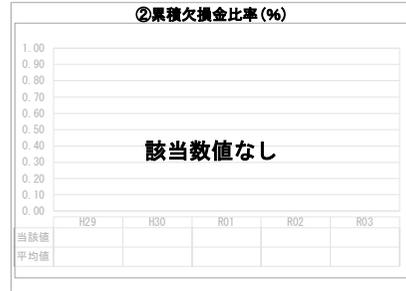
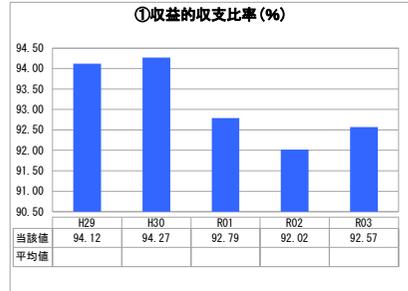
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	81.53	98.05	3,790

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,758	67.58	100.00
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,234	2.55	2,052.55

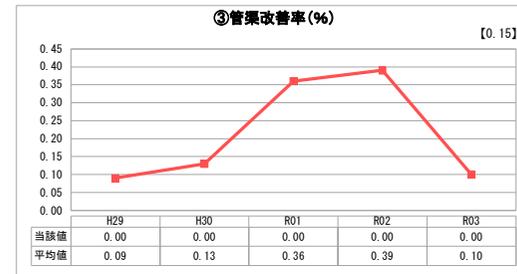
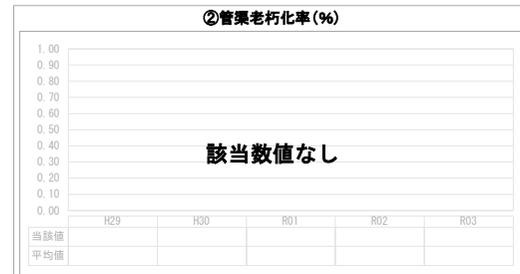
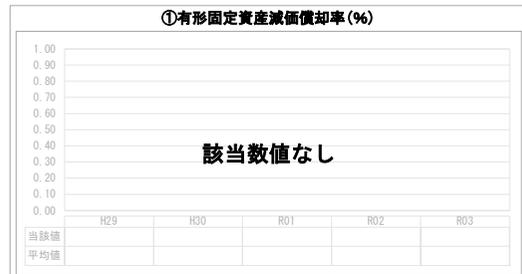
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①について  
収益的収支比率は、町民の節水意識の向上や人口減少による影響、起債の償還金が増加していることや誘致企業の撤退による使用料収入の大幅な減少が影響している。
- ②について  
起債残高対事業規模率は0%であるが、起債の償還金は一般会計からの繰入で賄っているのが現状である。
- ③について  
経費回収率は、類似団体より高い水準を維持しており、使用料収入で維持管理費を賄えているが、今後使用料収入の減少が見込まれるので、維持管理費の見直しが必要となっている。
- ④について  
汚水処理原価は、類似団体より低い傾向にあるが、今後は有収水量の減少が見込まれることから、ストックマネジメント計画に沿った資本費の平準化と維持管理費の削減に努める。
- ⑤について  
誘致企業の撤退による使用量の大幅な減少が流入水の減少に大きく影響している。また晴天時一日平均処理水量が減少したことが要因である。
- ⑥について  
水洗化率は増加傾向にあり、類似団体より高い水準を維持しており、今後也更加促進を図っていく。

### 2. 老朽化の状況について

- ③について  
本町の下水道事業は平成6年度に事業を着手しており、管渠の標準耐用年数である50年を経過する管渠がないため更新は行ってないが、硫化水素の発生する区間や重要な幹線については、カメラ調査を行い、現状を把握しておく必要がある。

## 全体総括

水洗化率は増加しているが、収益的収支比率及び施設利用率は減少傾向にあり、人口減少や節水意識の向上による一人当たりの使用水量が減少していることが考えられる。また、企業の撤退等で大幅な有収水量の減少となり、使用料収入が減少してきた。今後は更に施設のスペックダウンやストックマネジメント計画に則った適切な更新を行い、維持管理費の削減を図る努力をした上で、公営企業会計へ移行し、経営状態の「見える化」を行った上で、料金改定も視野に入れつつ、安定した汚水処理を引き続き行う。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。